

ランチョンセミナーの新シリーズが始まりました

教育開発支援センター主催のランチョンセミナーでは、第7回から11回までの5回に亘る新シリーズを始めました。題して『グループワークをはじめませんか?』です。既に授業でグループワークを導入されている方も、これからグループワークを授業に採り入れることを検討されている方も、お気軽にご参加いただき、知見やアイデアを共有したいと考えています。

ご存知のようにグループワークは授業を効果的に展開するための手法の一つです。この手法のアドバンテージをご理解あるいは再確認していただくために、便宜上、この手法に特有の、あるいは顕著なファクターをいくつか抽出しては、それについて説明をしたり、実践例を紹介したりするというスタイルでセミナーをすすめることとなります。とはいえ、実際の授業は各種要素が自然に融合するかたちで進行するものである—授業が生物(なまもの・いきもの)である—ことを等閑視するわけではありません。あくまでも“便宜上”、そのような展開になることをご理解賜れば幸甚に存じます。

新シリーズ第1回目(10月5日開催：通算第7回目)は『グループワークへの“助走”』と称して、グループワークを始める前の準備作業について話題を提供いたしました。グループワークを効果的にすすめるためには4～5人ぐらいのサイズが適切であるとされています。初めてグループワー

クを導入される場合には参考にされてもよいでしょうが、この数字を金科玉条とする必要はありません。グループワークの内容や受講生の属性などに応じて、適宜、サイズを決めればよいでしょう。

グループサイズもさることながらグループをつくる際に受講生を適切に配分することには十分に留意した方がよいかもしれません。受講者名簿の順番にしたがって機械的に分けるよりは、学部・学科・学年・性別あるいは教師の担当する別の科目の履修の有無などを勘案し、偏りのないグループを作る方が望ましいでしょう。そのような編成をグループワークの実施に先だって準備しておくこと、これを授業前の仕込みとしてご案内申し上げました。この他に受講生がグループ編成のプロセスを実感・体験できる方法も紹介いたしました。

続く4回に亘るセミナーでは教室において留意すべきことや新しいアイデアならびに実践例をいくつかご紹介する予定です。既に終了した第2回目は『グループワークに向けて“HOP STEP JUMP”』(11月16日開催：通算第8回目)と題してアイスブレイクに関する提案をいたしました。アイスブレイクの方法は多種多様ですが、セミナーではもっともポピュラーな方法の一つ、自己紹介のやり方について提案いたしました。

自己紹介において留意すべきは、学生が話すのに困らない内容を項目として立て

ておくこと、他のグループメンバーが紹介した事柄が誰にとっても記憶しやすいものであること、そのようにとらえておけばよいでしょう。さらにその項目(の中の一つ)がグループにおけるfree dialogueのきっかけとなるようなものであれば、なおよいと考えられます。このような作業が、人為的につくられたグループをメンバーがチームへと育てていくためのプロセスの一つであると捉えたと、より効果的な自己紹介やアイスブレイクの方法を編み出すことができるに違いありません。

残る3回は本学におけるグループワークの実践例を紹介する予定です。第3回目は『グループワークに向けて“HOP STEP JUMP”』(12月7日開催：通算第9回目)および第4回目『グループワークに向けて“HOP STEP JUMP”』(12月21日開催：通算第10回目)は化学生命工学部の片倉啓雄先生を講師としてお招きし、“World Cafe”をアレンジして、どの学生もが役割を遂行するように配慮された工夫などについてお話し戴きます。最終回(2013年1月11日開催予定)のタイトルは「グループワークのNEXT STAGEへ」です。長らくのグループワーク実践の蓄積をお持ちの商学部の長谷川伸先生を講師としてお招きします。これまでにご参加いただけなかった方も、どうぞ足をお運びくださいますよう、お願い申し上げます。

(教育推進部 三浦真琴)

ラーニング・アシスタント(LA)が

Northern Arizona University(NAU)の学生と交流を行いました

6月15日に本学の協定校であるNAUの学生16名及び教員が本学を訪問しました。その際に行った歓迎行事の一環



各グループのディスカッションの成果をプレゼンで共有

として、本学LAがNAUの学生・教員と交流しました。

フォーラム「日米の高等教育について考える」では、LAが日本の大学生の日常生活について英語でプレゼンテーションを行ったり、「クリッカー」を用いて日米の学生生活・文化の違いを確認し合ったりしました。

LAは普段の授業で培ったプレゼンテーション、グループディスカッション、ファシリテーション等の能力を如何なく発揮し、文化の多様性についての議論とお互いの交流をより深めるきっかけづくりに寄与しました。以下、

一部ではありますが、交流に参加したLAの声を掲載します。

(教育推進部 山本敏幸)



関大生の1日の過ごし方をLA(東城さん)がプレゼン

参加したLAの声

6月15日のフォーラムでは、NAUの学生の積極的で型にはまらないコミュニケーションスタイルを間近で見ることができました。理解するまで質問を投げかける活発な姿勢は見習うべきだと思います。また、伝えたいけど言葉が出てこないという場面があり、英語の必要

性を改めて感じました。それでも当日は、フレンドリーなNAUの学生や通訳してくれた学生に助けられ、有意義な時間を過ごすことができました。

(商学部4年生)

Learning Assistant

LA活動報告